

国際農業工学 レポート課題(4月14日)

「農業農村整備事業における建設コンサルタントの役割について」

建設コンサルタントは測量、調査、設計などを行う設計者の役割を担っており、国や地方自治体などの発注にこたえることで公共事業等を通じて社会貢献を行っている。

農業整備事業とは自然との共生を図りながら営まれている農業を支援するため、水田で必要な農業用水を確保するためのダムや堰の建設、営農条件を改善するための水田、畑の整備、農産物などを運搬するための農業用道路の整備、農村の環境整備などを行っている事業の総称である。

以上を踏まえ、農業整備事業における建設コンサルタントの役割とは、たとえば東日本大震災によって堤体天端部に開口亀裂が生じたのを修復するときは現状を正確に把握するためにどのような調査を行えばいいのかを検討し、次に実際に上の例であれば天端クラック調査などを行って数値を得る。その後、普段から行われている耐震シミュレーションや環境対策を盛り込んだ技術研究の成果を活かしながら、設計を行い施工者であるゼネコンやメーカーと打ち合わせを行って設計計画を実現させることである。

施工後のダムなどがその後の災害や環境変化、劣化などにどれだけ耐えられるかは建設コンサルタントの設計によるところが大きいので、もちろん工事自体の質も重要だがそれと同じかそれ以上に設計者の重要性は高い。

「印象に残ったキーワード」

私が印象に残ったのは ODA が途上国にしか適用されず、途上国ではないけどまだまだ発展中の国には企業が自己負担で開発などを行わなければならない、リスクがとても大きくて、そういった国の発展が遅くなる可能性があるという話だ。企業は慈善団体ではないので利益を追求しなければならないのは仕方のないことでありそれによって技術が眠ってしまうのはもったいないことだと思う。